

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	707 上野市駅前周辺地区暮らし・にぎわい再生事業	会計	01	一般会計
		款	08	土木費
		項	04	都市計画費
基本施策	27 秩序の中にもにぎわいのある都市空間をつくる	目	02	市街地推進費
		細目	371	市街地整備推進事業
行革大綱の重点事項番号		細々目	53	上野市駅前周辺地区暮らし・にぎわい再生事業
担当部課	コード	310100		担当者氏名
	名称	中心市街地活性化推進室		
		内田 充紀	連絡先	22 - 9825 (内線) 2826

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	再開発地区及びその周辺地区で事業を行おうとする事業者	※対象件数
成果(どうする)	中心市街地活性化基本計画に盛り込まれた事業(行政実施事業及び民間実施事業)について、「暮らし・にぎわい再生事業計画」を策定することにより、国からの支援が受けられることとなるなど円滑な実施が可能になる。また、再開発事業と併せて周辺地域のリニューアルを行うことにより、再開発事業の事業効果を高めることができる。	
根拠法令・要綱等	中心市街地の活性化に関する法律 暮らしにぎわい再生事業制度要綱	
開始年度	平成 20 年度	関連事業
終了年度	平成 24 年度	・生涯学習センター整備事業 ・俳句のくにづくり拠点施設整備事業
H21 事業内容	再開発ビルの公共公益床のワークショップ及び再開発エリアの隣接地にかかる新天地商店街の再整備について計画コーディネートを行った。	
社会情勢の変化等		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
暮らし・にぎわい再生事業計画の策定		%	目標	100	目標	
			実績	100	実績	
コーディネート業務による事業計画の円滑な作成		%	目標		目標	100
			実績		実績	100

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
暮らし・にぎわい再生事業計画策定進捗率		計画策定を100パーセントとする	%	目標	100	目標	
				実績	100	実績	
コーディネート業務による事業計画の円滑な作成		計画策定を100パーセントとする	%	目標		目標	100
				実績		実績	100

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計(A)	9,063	3,049	3,600	0				
Aの財源内訳	国庫支出金	3,000	1,000	1,200				
	県支出金							
	地方債							
	その他	0	0	0	0			
一般財源	6,063	2,049	2,400	0				
事業投入人件費(B)	0.5人 3,600	0.5人 3,600	0.5人 3,600	1人 0				
フルコスト(A)+(B)	12,663	6,649	7,200	0				

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	○
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		丸之内ルネッサンス事業をはじめとする上野市駅前周辺地区の再整備は、再開発ビルの整備と併せて中心市街地活性化の重要事業であり、まちなかへの誘導という観点からも再開発ビルの事業効果を最大限に引き出す事業であることから必要性は高い。
財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
達成度	当初設定した計画を <input type="text" value="100%"/> 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 予算の繰越の有無 <input type="text" value="無"/> 【予算の繰越がある場合、繰越の種類】 <input type="text"/>	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。全体コストにおける負担構成は適正である。コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	○

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	民間事業のコーディネートの際は、再開発事業のスケジュールや整備趣旨等との整合を図り、行政依存になり過ぎないように注意する。
昨年度の取組状況	【状況】 <input type="text" value="計画のとおり進んでいる"/> 【詳細】 新天地の再整備について、地権者等との調整を図るため勉強会を開催した。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	東 弘久
事業の方向性	【方向性】 <input type="text" value="終了"/> 【理由】 暮らしにぎわい再生事業として本年度で計画コーディネートは終了するが、次年度以降は丸之内ルネッサンス、新天地の再整備などについて都市再生整備計画事業等で具体的な事業展開を図っていく。
現時点における課題、その他	
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	